

# 古文書に見た貝毒事件

田 沢 伸 雄

夷人共一同承知奉畏候依而御請書如件。

天保二年卯五月

クスリ御場所六ヶ村惣代

コニシヤカラ

同 通 辞 福 松  
同 支配人 吉 蔵

御詰合様

(新釧路市史 第四卷 所収)

この文書はシユリ貝(イガイ)を食べた五名が死亡した、ゆゑシユリ貝の食用を禁じたことに対し、以後シユリ貝は食べないという誓書である。

二枚貝の中毒で死亡者を出したのは、前記の麻ひ性貝毒のほか内臓毒によるものがある。後者については明治三二年(一八八九)三月、神奈川縣長井でカキによる中毒として我が国で最初に記録されたものである。以後、昭和に入ってからカキ及びアサリによって、この種の中毒事故の報告が数件みられる。古文書に見られる蛇田場所での中毒は、その症状の記録が無いので麻ひ性貝毒か内臓毒によるものなのかを判断することは難しい。しかし、後者による中毒症状は普通、摂食後二四〜四八時間で現われ、一〇才以下の小児と六〇才以上の老人に重症者が多く、死亡率も高いと言われており、前者の中毒症状は食後五〜三〇分で現われ、重症の場合は普通一二時間以内に死亡すると言われている。請書には「即死」と記されていることから、シユリ貝を食べて間もなく死亡したものとと思われるので、麻ひ性貝毒による疑いが極めて強いと言えるのではないだろうか。

ともあれ、この記録は我が国における貝毒による中毒事件として最も古いものと思われる。(たざわのぶお 場長)

毒化した貝による人の中毒は、欧米各国では古くから知られている。特にイガイによる中毒はその代表的なもので、一七九〇年にロシアの探検隊がアラスカでイガイを食べ、一〇〇名が死亡したのがその最初の記録とされている。これは麻ひ性貝毒によるもので、我が国においても昭和三年(一九四八)七月、愛知県豊橋市でアサリにより二二名が中毒し一名が死亡、昭和三六年(一九六一)五月、岩手県大船渡市でアカザラガイにより二〇名が中毒し一名が死亡、また死亡者は出なかったが、昭和三七年(一九六二)二月、京都府宮津市でカキにより四二名が、昭和五四年(一九七九)一月、山口県長門市で一六名の患者の発生をみたことが報告されている。さらに、本道では昭和五四年(一九七九)四月、旭川市の人が噴火湾で採取したムラサキイガイを食べ、五名が中毒を起し一名が死亡したことは麻ひ性貝毒による中毒の最新の記録であらう。

北海道が蝦夷地と呼ばれ、松前藩が支配していた頃の古文書に「御用諸書物留」というのがある。これは村方支配にあたる場所請負人(会所支配人が代行)から行政機関である松前藩の役人詰所に提出された文書の写しを集めたものであるが、この中に次のような記録を見ることができ。

奉差上御請書之事

一、去三月中アフタ於御場所シユリ貝ニ混布入煮候ヲ番人並夷人共喰候処、即死番人式人夷人三人ニ及候事有之候。右者全毒貝有之候哉ニ相聞得候。右ニ付御城下表ニ而御場所請負人共御呼出有之、以来番人並夷人共ニ至迄シユリ貝江昆布喰用仕間敷旨、其所々詰合迄請書差出可申旨敷敷被仰出候趣、此度受負人ヨリ申越候ニ付此段御届申上候処、番人並役夷人御呼出右之趣被仰渡番人並